

第3回委員会議論のポイントまとめ

委員から	事務局から
舗装について	
舗装材について、参考資料で提示してある物を全て使用する訳ではないですね。	資料で提示してある舗装材の種類はあくまでもイメージであり、計画を進めて行く段階で適した舗装材を選定していきます。
舗装材は種類によって単価が違うのか。雨の日に滑らない石の選定をしてほしいと思う。ケバケバしいイメージを与える物は避けてほしい。	舗装材の種類によって単価はそれぞれ違ってきます。雨が降った時でも滑りにくい材料を選定するように注意します。
舗装の素材については今日決めるのか。コンクリート面が多いのはあまり好きではない。	舗装の素材は今日決めません。資料はあくまでも参考で、今後検討していきます。
芝生について	
<p>今回の計画案は芝生の管理がポイントとなってくると思う。多数の利用者が来ても大丈夫な芝生の管理を考えてほしい。</p> <p>利用されていく段階で芝生が枯れた場合は臨機応変に対応してほしいと思う。</p> <p>現在の緑地は誰が清掃をしているか。清掃については商店街のボランティア活動など周囲の協力も必要だと思う。そのための検討もしてほしい。</p> <p>芝生を張る際、土壌の改良についてはどう考えているか。</p> <p>散水の方法についてはどう考えているか。どうしても天然芝の使用が困難なのであれば、人工芝を使用するという方法もあるのではないかと思う。最近の人工芝の性能は昔に比べると、だいぶ品質が上がってきているという話を聞いている。</p>	<p>芝張りについて、既設の陶板舗装と路盤のクラッシュランを撤去した後に客土を入れます。植物の生長には土壌の条件が重要なので、芝生に適した土壌に変えてから芝生を張ります。</p> <p>撤去工事により発生した残土については東京都の指定の処分場で処理を行います。</p> <p>彫刻の周りは利用頻度が高い場所だと考えられるので、芝枯れ対策、子供が遊んだ時の安全対策として、ゴムチップ舗装や人工芝など素材で対応したいと考えています。</p> <p>芝生が枯れた場合の対策としては、当初からそのための予算を確保しておき対応できるようにしたいと考えています。</p> <p>現在は緑地ということで清掃を行っていますが、今回の計画により利用が増える場合、それに相応しい場所として維持できるように管理の頻度を上げていくよう検討したいと思っています。</p>
芝生管理に掛かる予算は全体工事費の中でどのくらいなのか知りたい。芝生管理の考え方として、事務局から良い返答を頂けたので、その方針で継続してほしいと思う。	芝生管理について、現段階では詳細の積算はできないので、計画が進み芝生の面積が確定していき次第調整を行っていきたいと考えています。
<p>現在、区の決算委員会が開かれているが、そこに参加している複数の議員の方に美術の森緑地整備について興味を持って頂いていて、芝生化については特に期待されていた。</p> <p>練馬区には今まで天然の芝生を主とした広場を区民に提供している公園がなかったので、今回の計画が初めての試みとなる。</p> <p>芝生広場を作るには維持管理に手間がかかることや、冬場には枯れてしまうということ、一定期間の養生が必要になるというような課題がある。</p> <p>長期的な利用と維持管理のバランスを考えながら今後検討を進めていく必要があると思う。</p> <p>また彫刻周りや彫刻へのアプローチに管理面や安全面の問題から芝生でない素材の検討も必要になるかと思う。</p> <p>地元の方にも協力して頂いて美術館と一体となった管理ができる公園づくりをしていけたら良いと思っている。</p>	
散水用スプリンクラーの設置費用はどのくらいかかるのか。	散水方法としては、スプリンクラーを使用した自動散水、手動散水と手撒きによる散水などがあります。散水栓は設置する必要があります。費用については、仕様が決まらないと積算できません。

鳥の彫刻について	
彫刻の中に鳥も入れてほしいと思う。単体で作らなくてもよいので、製作した彫刻の肩などにポイントとして追加する形でもよいと思う。	鳥については、動物とマッチする特徴あるものを検討します。
鳥をポイントとして追加する案はよいと思うが、外部に設置する彫刻なので人にたくさん触れられることを考慮し、耐久性のある形状を検討する必要があると思う。	
森には鳥がつきものなので、緑の多い場所には鳥の彫刻があった方がよいと考えている。	
彫刻の作者の発想に任せて、鳥をポイントで入れることも可能だということにすればよいと思う。	
子どもとの関係について	
子どもだけでなく家族も高齢者も誰もが楽しめる空間づくりというのは一理あるが、注意しないと八方美人な計画になってしまうと思う。コンセプトを絞って、どこかに重点を置いた計画にする必要がある。子供用の彫刻を作るのではなく、大人から子どもまで誰もが持っている幼な心に触れるような彫刻を作る必要があると思う。	子どもだけの彫刻を制作するのではなく、幼児から高齢者までの広範な世代の方に喜んでいただける彫刻を制作していきます。
八方美人になってしまい、個性がない計画にならないように注意することは大事だと思う。	
子ども用という観点で彫刻を作るのではなく、誰もが持っている子供心に触れるものを作るべきと思う。鳥を入れることに反対している訳ではなく、鳥は種類が多いので、動物中心の彫刻の中に入れてしまうと全体のバランスが崩れてしまうと思っている。	
多目的の利用について考えなければいけないが、計画の個性やコンセプトは必要だと思う。計画当初から子どものための彫刻を作るということは考えていないと思う。広場内に彫刻を点在させないと広場内を自由に通り抜けられてしまい、けもの道が出来てしまう可能性が考えられる。	
バリアフリー対応について	
中村橋にはケアセンターもあることから、商店街も含めバリアフリーに力を入れた街づくりを考えている地域なので、公園内についてもバリアフリーに配慮して頂き感謝している。地域の方にも喜んで頂けると思う。前回の計画案について、まちづくりの協議会で説明したところ、中村橋のメンバーの方から中村橋の活性化に繋がるものだという事でご好評を頂いた。商店街としても美術館とのタイアップをより深めながら、美術館と一体となった街の活性化に向けて共に努力していきたいという声が上がっていた。また現在参加していない商店街の方からも、今後参加していきたいという声が上がっていた。視覚障害者も楽しめる工夫をしてほしい。	バリアフリーの対応は、十分に配慮していきます。視覚障害者の方が触れて楽しめ、かつ安全な彫刻を制作してまいります。
彫刻は子どもだけでなく、視覚障害者も触ることができるようにしてほしいと思う。	

その他	
ヨーロッパに行くと街が非常によく整備されている。日本でも里山は人の手が入ることによって維持されてきている。それと同様、彫刻にもメンテナンスが必要だと思う。 今までの公共事業では作ってしまって終わり、お金がないと管理をやらないということが多くあったと思うが、美術の森では利用者の気遣いや地域のボランティアの方の参加などにより、皆で協力して維持していければよいと思う。	
東京ランドスケープという会社にいると参加してもらっているようだが、全体の計画を任せているのか。	東京ランドスケープ研究所にはコンサルという立場で基本構想の策定の助言等をいただきながら、基本計画を作成してもらいます。 彫刻については、日本大学芸術学部にも協力してもらっています。
既存樹木はどうなるのか。	メインエントランスを設置する際、影響がある場所など、一部の既存樹木は伐採しますが基本的には現状の木を残す方針で考えています。
メインエントランスについて、どのくらいの幅員が適しているのか再度検討してほしいと思う。堂々としたアプローチにしてほしいので、現計画案の幅員より1.5～2倍の幅員があった方がよいと思う。 子どもだけでなく高齢者まで多くの世代の利用を考えて、自由に利用できる空間を確保することが大事だと考えている。そのためには彫刻を端に寄せるなどして、通行の邪魔にならないような彫刻のレイアウトを検討してほしいと思っている。 利用者が一度見に来たらもう来なくなってしまうような空間ではなく、何度も遊びに来て長く利用される空間にしてほしい。 舗装材については、緑地全体の統一感を大事にして選定してほしいと思う。	メインエントランスについては、バリアフリーの観点から車いすが相互に通行しても十分な幅員(5m+)とりました。現状では、芝生と彫刻の適度なバランスを考えていますし、それなりの空間は確保できると思います。彫刻物だけ端に寄ると「美術動物園」としての見え方が希薄になると思います。舗装材については、その方向で考えています。
後日聴取分	
芝生の管理をしっかりとしないと芝生と雑草が混在してしまう。それをどのように考えるのですか。	適切な管理を行い、雑草との混在がないように努力していきます。
ヘビヤトカゲの彫刻は制作するのか。	ヘビはニキ・ド・サンファルの作品をイメージし、トカゲはアントニオ・ガウディの作品をイメージしています。リアルな彫刻ではなく、利用者から親しまれる、明るく楽しい彫刻を制作していきます。
美術館と地元の商店街組合との協働事業を実施する場合は、商店街が地元には2団体あるので、双方に配慮して欲しい。	地元の皆さんのトータルパワーをお借りできればと思っています。よろしくお願いします。